

今年の暑すぎた夏が、通りすぎていく気配がしてきました。この時期は二十四節季の一つ「処暑」となります。暑さのピークは「大暑」暦上の秋である「立秋」、そして「処暑」という順です。そろそろ訪れるはずの秋に読みたい一冊を選びに来てくださいね。

地球温暖化

この夏の猛暑、台風、災害の中で地球規模の気候変動に危機を感じた方も多いと思います。地球の憤りを鎮める手立ては、皆さん個々にも必ずあると思いますので、できる事を調べて学び、取り組んでみてはいかがでしょうか。



『だれも教えてくれなかった エネルギー問題と気候変動の本当の話』 ジャンマルク ジャンコビツ著

現在の“エネルギー危機”は、どのように起きたのか？再生可能エネルギー、原子力発電とはなにか？どんな犠牲を払っても、経済は成長すべきなのか？世界の最前線ではどんな議論がなされているのか、最新の知見を駆使し、我々が抱える課題に分析と解決策を提示されています。



『暴れる地球』浅島亮子著

毎年のようにスーパー台風が上陸し、ゲリラ豪雨に見舞われ、地震リスクと向き合っている災害列島日本。「30年に1度」のはずだった異常気象が頻繁に起こるようになり、誰もが地球の暴走をひしひしと感じ始めているでしょう。地球に何が起きているのか。地球の温暖化はわれわれの生活やビジネスにどのようなメリット・デメリットをもたらすのか考える一冊です。



『日本の気候変動5000万年史』佐野貴司著

日本の気候は、超温暖期から寒冷化、モンスーン開始による梅雨の誕生、エルニーニョ多発の時代、氷期など、さまざまな変化を経験してきました。そうしたなかで、日本は列島を形成し、日本特有の温暖湿潤で美しい四季をもつ気候となってきました。その長い時代の変遷の中で、日本の気候はどのように変化したのか？日本列島の地質学的な変化と気候の変化を関連づけて明らかにしていきます。



『気候変動から世界をまもる30の方法』

気候変動エネルギーチーム著

科学が警告する地球環境の激変・5分でわかる気候変動のしくみ・科学者は60年以上も前から温暖化の警鐘を鳴らしていた など30の項目から、世界に求められている気候正義という気候危機に立ち向かうための正義が説かれています。1900回の災害と、2390万人の気候変動で難民化するそうです。とまらない気候変動の必要な正義とは何か考えてみましょう。

第2回図書館イベント報告

第2回図書館イベントは、創部9年目のラグビー部有志の皆さんが、朗読とラグビーパフォーマンスで盛り上げてくれました。

『ラグビーへの道』堀越 滋著

ラグビーは厳しく辛いスポーツでありながら、それを乗り越えたところに人間味あふれる道がある。(本文より)



ラグビー部は創部9年目となり、先輩方から引き継がれてきたプレースタイルをさらに進化させています。厳しい練習や毎日のトレーニングを積み重ね、全国の強豪校との練習試合で接戦を制するチームとなってきました。今回の図書館イベントは、先輩方が毎年のように披露している『ラグビーへの道』という本の一節を、ウィングがパスを廻すようにそれぞれが独唱しました。また、独唱前にラインアウトというプレイを行い、ラグビーというスポーツの迫力や力強さを目にしてもらいました。花園予選に向けて、全校の皆さんに応援してもらえよう頑張ります。
ラグビー部 主将
36HR内山君 37HR田尾君 38HR名倉君

南北朝を読む

この夏、大注目されているアニメの歴史系作品「逃げ上手の若君」は、南北朝時代を中心に北条にハイライトを当てた作品です。南北朝時代とは、後醍醐天皇が足利尊氏との対立により、京都から吉野へと逃れた1336年から、足利幕府三代将軍である「足利義満」による南北朝合一を実現した1392年までの時代とするのが一般的です。この時代、京都の北朝と吉野の南朝と二つの朝廷が存在し、同じ時代に二人の天皇がいてそれぞれが対立するという非常に珍しい時代でした。武家勢力の棟梁が北条家から足利家へと移り変わり、南北朝時代を経て室町時代が紡がれ、そして織田信長に滅亡される歴史を辿ります。この時代は、情勢が変わるたびに敵味方が変わったり思いがけない展開があり、南北朝時代を舞台にした書物では人の世の混迷・奔放・無常を感じることができます。



『極楽征夷大將軍』垣根涼介著

動乱前夜、北条家の独裁政権が続いて、鎌倉府の信用は地に落ちていた。足利直義は、怠惰な兄・尊氏を常に励まし、幕府の粛清から足利家を守ろうとする。やがて後醍醐天皇から北条家討伐の勅命が下り、一族を挙げて反旗を翻した。混迷する時代に、尊氏のような意志を欠いた人間が、何度も失脚の窮地に立たされながらも権力の頂点へと登り詰められたのはなぜか？幕府の祖でありながら、謎に包まれた初代将軍・足利尊氏の秘密を解き明かす歴史群像劇。

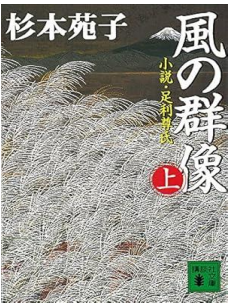
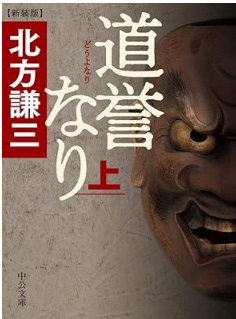


『星と龍』葉室麟著

悪党と呼ばれる一族に生まれた楠木正成の信条は正義。近隣の諸将を討伐した正成は後醍醐天皇の信頼を得ていく中、鎌倉幕府による霸道と思しき政事から、天子の徳による王道政事に戻すべく後醍醐天皇による『建武の新政』がなされる。しかし正成の描く正義の理想国家は大塔宮の暗殺、足利尊氏の動きで暗雲が漂うこととなる。著者の絶筆により未完、読者の見解で終章を読みとれる。

『道誉なり』北方謙三著

毀すこと、それがバサラ。六波羅探題を攻め滅ぼした足利高氏(のち尊氏)と、政を自らつかさどらんとする後醍醐帝との暗闘が風雲急を告げる中、「バサラ大名」佐々木道誉には、毀したいものがあつた。数々の狼藉を働きつつ、時代を、そして尊氏の心中を読む道誉。帝が二人立つ混迷の世で、尊氏の天下獲りを支えながらも、決して同心を口にしようとはしない道誉の行く末とは。



『風の群像』杉本苑子著

天下取りの好機。後醍醐帝から討幕論旨が下り、源氏の棟梁・足利尊氏は弟直義、高師直らと旗揚げして北条氏を討った。しかし“野草の群れ”武士の暮しを守る武家政権を目指した尊氏と、親政を企む帝が対立。「土に根ざし汗にまみれた者たち」の幕府開設へ熾烈な戦いが始まった。「太平記」をもとに尊氏の討幕の決意、足利直冬(冬冬)の出生、大塔宮の最期など「太平記」や「梅松論」では読み取れなかった場面が鮮明に描かれた作品。

1学期の各学年多読学級

1学年	・13HR 146冊	・11HR 127冊
2学年	・21HR 46冊	・28HR 43冊
3学年	・36HR 68冊	・32HR 29冊



ビブリオバトル・イベント 参加者大募集

図書館の利用に積極的になってもらえるように本の魅力をあなたなりにアピールしてみませんか？
図書委員と司書でサポートしますので、是非ご協力下さい！！